

令和7年度 第2回多摩市子ども・子育て会議 要点録

日時	令和7年7月10日（木） 18:30～20:00
場所	多摩市役所 301・302 会議室
参加者	加藤委員（会長）、西委員、山口委員、春田委員、西川委員、大津委員、森田委員、野坂委員、早川委員、佐藤（妙）委員、廉田委員、荒井委員、木下委員 欠席：立花委員（副会長）、三井委員

1. 開会

- 会長 ：令和7年度第2回多摩市子ども・子育て会議を始めます。事務局より出席者の報告をお願いします。
- 事務局 ：本日の出席者は、15名中13名です。過半数を超えているため、多摩市子ども・子育て会議設置条例第7条の規定により会議は成立します。
- 会長 ：それでは次第に沿って進めます。はじめに、事務局より資料の確認をお願いします。

（事務局より、配布資料の確認）

2. 報告

【報告事項】

①多摩市子ども・子育て・若者プラン～第2期多摩市子ども・子育て支援事業計画～における令和6年度の推進状況について（報告）

（子ども・若者政策課長より報告事項の説明）

会長 ：事業ごとの記載量や記載内容に差異があるが、それらは各所管課に任されているのか。また、市の目線ではなく、利用者等についてどのような計画であったかといった目線があってもよいのではないか。

子若条例を基に事業を推進していく中で、どのように子ども・若者の意見を取り入れ、反映させていったのか等についての記載もあるとよいと感じた。

→事務局：基本的には所管課が記載した内容を踏まえている。現在の計画を評価する際には、今いただいたご意見を踏まえ、評価方法や内容について検討していきたい。

委員 ：小さい子どもや学齢期の子どもへの支援が手厚いことはよいが、ひきこもり等の

若者支援体制が薄いと感じる。相談窓口だけで対応しているのか。また、ひきこもり等の支援のなかで、民生委員がカスハラ等の対応まで行っていると聞いているので、支援体制についても検討して欲しい。

→事務局：一つの機関に任せるのではなく、多くの機関が連携して対応するように庁内会議においても認識を共有して連携して対応している。居場所や相談窓口について、しっかりと当事者に情報が届くように現計画に基づいて手法を検討するとともに、民生委員だけに任せることのないよう改めて確認していきたい。

②「たまこどもフェス 2025」の開催結果について（報告）

（子ども・若者政策課長より報告事項の説明）

委員：保育協議会の会議で、実施した企画の振り返りを行った。昨年度は8月25日で大変暑かったが、今年度は6月15日開催であったため、過ごしやすく、同様の来場者数であっても、人数が分散されていたため運営しやすかった。

③保育所保育料第1子無償化について

（幼児教育・保育担当課長より報告事項の説明）

委員：子育て世帯にとってとてもよい取組だと感じる。一方で、制度上仕方ないと感じているが、定期利用保育の一般利用については生活保護世帯であっても有料となるため、今後対応していただきたい。

委員：近隣市には幼稚園の預かり保育に900円補助している自治体もある。また、子どもに教育を受けさせるため、幼稚園に通わせている若い世代の家庭も増えている。第1子の無償化よりも非課税世帯も含めた教育・保育の負担軽減に取り組んでいただきたい。

→事務局：多摩市における預かり保育の補助額は450円であるが、補助額については預かり保育を実施している幼稚園の料金を踏まえて決めている。幼児教育の充実を図るため、他市と同程度までの補助額の増額、また幼稚園の入園金の補助も創設した。今後についても、引き続き幼児教育の充実に向けて取り組んでいきたい。

④東京都保活ワンストッププロジェクトへの参画について

（幼児教育・保育担当課長より報告事項の説明）

- 委員：まだ事業が始まっていないところではあるが、現状見学予約の電話が多いため、導入することでどの程度業務負担の軽減につながるか注視していきたい。
- 委員：幼稚園も電話にて問合せをいただくこともあるが、働いている家庭は園の開園時間内に電話をすることが難しいため、最近は HP での問合せが増えている。保護者の負担軽減にもつながるこのような取組があることはよいことだと感じた。

⑤令和 8 年度認可保育所等及び学童クラブの入所受付スケジュールについて

(幼児教育・保育担当課長及び児童青少年課長より報告事項の説明)

- 委員：保活ワンストッププロジェクトに登録しておく、保育園の申し込みが始まったタイミング等で保護者に連絡が来るのか。
- 事務局：例年、たま広報や市公式 LINE、HP にて申請時期等について周知を行っているところであるが、保活ワンストップのシステムでそのような運用が出来るかについては、システムを運用していくなかで検証していきたい。

⑥貝取学童クラブの豊ヶ丘小学校校舎内への移転（校内化）の進捗状況について

(児童青少年課長より報告事項の説明)

- 委員：豊ヶ丘小学校の周辺は街灯の関係で暗い場所がある。学童クラブへの行き帰りの時間は季節によっては暗くなってしまうため、児童やその保護者が安心して学童クラブに通えるように街灯を増やすなど、環境整備を行ってほしい。
- 事務局：暗くなるのが早い季節は、暗くなる前に帰宅させるよう工夫している場合もある。道路や街灯等に関連する所管課には、ご意見があったことを伝えさせていただく。
- 会長：貝取学童クラブを移転後、その跡地についてはどのように利用するのか。
- 事務局：児童館の今後のあり方基本方針に基づき検討しているところではあるが、豊ヶ丘複合施設内にある豊ヶ丘児童館を移設する方向性である。

⑦令和 7 年度放課後こども教室週 5 日新規実施校の進捗状況について

(児童青少年課長より報告事項の説明)

- 委員：南鶴牧小はどのような教室を活用して行うのか。
- 事務局：日によって異なるため、受付の際にその日の活動場所を子どもたちに伝えている。前は体育館や図書室で行った。
- 委員：使用教室についてはスケジュールが組まれているのではなく、直前に分かるのか。
- 事務局：学校と協力して空いている教室を貸していただいているため、直前の周知となる

場合もあるが、事前に周知できる場合もある。

委員：以前、高学年の登録率の話があったが、現段階での登録率の学年比率について教えてほしい。

→事務局：はっきりとした数字は出てきていないが、現段階では3、4年生が多い。

委員：需要がまだ多くないということか。

→事務局：7月1日から開始したため、資料作成時点（6月20日）の登録数は多くないが、7月10日時点で346件の登録があり、今後も増加が見込まれる。

委員：学童クラブに入所決定した後に、放課後子ども教室に参加登録をした人数が分かれば教えてほしい。

→事務局：現時点で数字は把握できていないが、今後把握していく。

委員：見守りをする大人の人数について教えてほしい。

→事務局：委託での人数は原則3人としているが、ボランティアの方の人数によっては多くなる日もある。遊べる場所も限られているため、その人数でも充足していると考えている。

⑧たまごどもキャンプについて

（児童青少年課長より報告事項の説明）

～意見等なし～

3. 閉会